

多様なニーズに挑む 岡山協立病院の真価

毎年記録的な暑さが続き、熱中症で救急搬送される方が増えています。一見すると、環境問題と医療は別々のもののように思われがちですが、実は私たちの健康と暮らしは周囲の環境と深く結びついています。当院は昨年、環境負荷低減を図る医療組織の国際ネットワーク「GGH」に日本の病院で初めて加盟し、環境にやさしい医療を通じて地域の皆さんの健康を守る取り組みを進めています。

■なぜ環境と健康がつながっているのか

「環境問題は自分には関係ない」と思われる方も多いかもしれませんが、私たちが健康



よした・けい 2008年、

自治医科大学卒。神奈川、山口県でプライマリ・ケアや保健所勤務、へき地医療支援、総合診療医の育成に関わった。2023年から岡山協立病院総合診療科・救急科に勤務。医療機関が温室効果ガス排出量を測定・管理するための無料のオンラインツールを翻訳し、国内での普及に取り組む。家庭医療専門医、総合診療専門医、総合内科専門医、腎臓専門医。

② 環境と健康はつながっている ～地球にやさしい医療でみんなの健康を守る～

岡山協立病院救急科部長 横田 啓

健康は周りの環境に大きく左右されています。最も身近な例が熱中症です。毎年の猛暑は命に関わる問題であり、救急外来にも多くの患者さんが搬送されます。2024年には全国で熱中症による死亡者数が初めて2千人を超えました。特に、経済的

な理由でエアコンの使用を控える方ほど重症化しやすく、環境の変化は健康格差の問題ともつながっています。また、大気汚染も心臓や肺の病気の一大要因となり、健康に大きな影響を与えています。最新の医学データによると、

日本では年間約2万5千人の方が化石燃料（石炭・石油・天然ガス）による大気汚染で心臓や肺の病気により亡くなっていると考えられています。

■環境にやさしい医療の意味と当院の特徴

こうした中で、病院が環境問題に取り組む意義は決して小さくありません。医療現場では多くの使い捨て用品を使用しており、当院でも年間約400万枚のプラスチック手袋を使用しています。適切な

使用を心がけることは、環境負荷を減らすだけでなく、感染対策の面でもより安全で質の高い医療につながります。さらに、ぜんそくや慢性閉塞性肺疾患の治療で使われる吸入器も、環境負荷の少ない選択肢を取り入れることで、治療効果を保ちながら地球環境にも配慮することができ

ます。また、当院では残薬対策にも力を入れています。受診時に「余っているお薬はありませんか」とお声かけし、薬剤師による確認も行うこと



テラスでは園芸療法を行う

で、必要な分だけを通じて使用する医療を目指しています。薬は製造や流通の過程でも環境に負荷をかけるため、無駄を減らすことは患者さんにとっても社会にとっても大切です。

■地域とともに育む健康と環境の未来

リハビリテーション部では、病院のテラスで野菜を育てる園

芸療法に取り組み、収穫物を活用したイベントなどを通して、患者さんが緑に触れ合える機会をつくっています。こうした自然とのふれあいは、身体だけでなく心の健康にも良い影響をもたらします。

また、「運動は百薬の長」という考えのもと、運動の大切さも積極的に発信しています。定期的な運動は、認知機能低下が40%、2型糖尿病が35%、うつが48%減少するなど、多くの病気のリスクを下げることができます。予防によって医療の必要性が減ることは、結果として環境負荷の軽減にも結びつきます。

さらに、医療機関の環境負荷を数値化するツールを日本語に翻訳し、全国へ広める活動も進めています。現状を見える化し、改善効果を測定できる仕組みを整えることで、より多くの医療機関が環境に配慮した取り組みを始められるよう支援しています。

私たちは、子どもたちや孫の世代が安心して暮らせる環境を残すことを目指し、命を守る医療者として、健康と環境の両方を大切に医療を地域の皆さんとともに実現していきたいと考えています。

岡山協立病院（086-272-2121）